

第六章 不治の病に罹りし時

身軀はつ髮膚我之を父母に受け、鐵石の心臟鋼鐵の筋骨我は神の像と精とを以て世に出でたり、我にアダムアダムの無死の軀格なかりしにもせよ、我にアポロの完全均齊なる身軀なかりしにもせよ、我の父母より授かりし軀は今日我の有する軀にあらざりしなり、我に永生にまで至るべきの肉軀なかりしも、我能く百年の勞働と快樂とに堪ゆる靈の器を有せり、仰あやひでは千仞せんじんの谷を攀よぢ登るべし、伏しては隻手せきしゆを以て蒼海を渡るべし、鷺の如きの視力能く天涯を洞察し得べし、虎の如きの聽神經能く小枝を拂ふ軟風を判別し得べし、我の胃は消化し能わざる食物あるなく、我の肺は萬丈の頂巔ちやうてんにあるも我に疲勞を感じしめず、我醒むる時は英氣我に溢れて快を絶呼せしめ、我の床に就くや熟睡直ちに來て無感覺なる事丸太の如し、山を抜くの力、世を蓋おほふの氣、我之を有せり、而して今之を有せざるなり。

此快樂世界も病める我に取りては一の用あるなし、存在は苦痛の種にして我の死を望む勞働人夫の夜の來るを待つが如し、梅花は香かうを放つも我に益なし、鶯は戀歌れんかを奏するも我に感なし、身を立て道を行ひ名を後世に遺すの希望は今全く我にあるなく、心を盡し力を盡し國と人とを救ふの快樂も今は我の有に歸せず、詩人ゲーテ曰く *Unütz sein ist Todt sein* (不用にあるは死せるなり) と、我いま世に不用なるのみならず我の存在は反かへつて世を惱ますものなり、我若し他を救ひ得ずば我は他人を煩らはさざるべし、嗚呼恵ある神よ、一日も早く我をして今世を終らしめよ、我今爾より望む他にあるなし、死は我に取りては最上の賜物なり、

138

我絶望に沈まんとする時、永遠の希望は又我を力づくるあり、基督は希望の無盡藏なるが如し、彼に依てのみ枯木も再び芽を出すべく、砂漠も花を生じ得べし、預言者エゼキエルの見し枯れたる骨の蘇生せしは我等の目撃する事實なり（以西結第三十七章）。

不治の病に罹りし時の失望は二個なり、即ち我再び快復する能はざるべし、我は今は癪人なれば世に用なきものとなれりと。

一、汝如何にして汝の病は不治なるを知るや、名醫已に汝に不治の宣告を申渡したるが故に汝は不治と決せしか、然れども汝は不治と稱せし病の全癒せし例の多くあるを知らざる也、汝は十九世紀の醫學は人間と謂ふ奇蹟的小天地を悉く究め盡せしものと思ふや、近來醫學の進歩は實に驚くべきなり、然れども醫者は造物主にあらずるなり、時計師のみが悉く時計の構造を知る、神のみが悉く汝の脉を知るなり、殊に此診斷^{そうごう}龜^こ陋^{ろう}の時代に當て我等は容易に失望すべきにあらずるなり、生氣は天地に充ち満て常に腐敗と分解とを留めつゝあるなり、醫師、悉く我を捨てなば我は醫師、醫師なる天地の造主に行かん、彼に人智の及ばざる治療法と藥品あるべし、生命は彼より來るものなれば我は眞に生命の泉に至て飲まん、醫學の進歩と同時に人類が醫學を專信するに至り、醫學の及ばざるを以て人力も神力も及ばざる處と見做すに至りしは實に人類の大損耗と云はざるべからず、我等勿論舊記に載する奇蹟的の治療今日尚存するとは信ぜず、屋根より落て骨を挫きし時醫師に行かずして祈禱に頼るは愚なり、不信仰なり、神は熱病を癒さんが爲めに「キナイン」劑を我等に與へ賜へり、人これあるを知て之を用ひ

ざるは罪なり、局部切斷の時に当り「コロゝホルム」劑は天賜てんしの魔睡劑ますみざいなれば感謝して受くべきなり、然れども我等病める時に悉く醫者と藥品とに頼るは我等の爲す可らざる事なり、我等病重くして庸醫を去て名醫に行くが如く、名醫も尚我等を治ちする能ざる時は神なる最上の醫師に至る也、庸醫よういが私の病は不治なりと診斷する時は私は絶望に沈むべきや、否然らず、名醫の診斷は庸醫の診斷の全く誤謬なるを示す事あるが如く、全能の神より見賜ふ時は不治と稱する汝の病も又治ちし難の病にはあらざるべし。

世に信仰治療法なるものあり、即ち醫藥を用ひず全く衛生と祈禱とにより病を治ちする法を云ふ、我等は或一派の信仰治療者の云ふが如く、醫師は惡鬼の使者にして藥品は惡魔の供する毒物なりと云はず、然れども信仰は難病治療法として莫大の實功あることを疑はず、勿論我等の稱する信仰治療法なるものはかの偶像崇拜者が醫藥を輕じて神佛に祈願し、或は靈水を飲むの類るいを云ふにあらず、信仰治療法は身軀を自然の造主とその法則とに任し、怡然たいぜんとして心に安じ宇宙に存在する靈氣をして私の身軀を平常軀に復さしむるにあり、是迷信にあらずして學術的の眞理なり、殊に醫師の稱する不治の病に於ては唯此治療の頼るべきあるのみ、我は我が病を治せんが爲めに法便として信仰せず、是眞正の信仰にあざればなり、如斯の信仰治療法は無益なり、然れども我信ぜざるを得ざれば信ずるなり、

見よ下等動物の傷痕きづを癒すに於て自然法の速かにして實功多きを、清淨なる空氣に勝る強壯劑のあるなく、水晶の如き清水に勝る下熱劑のあるなし、殊に平安なる精神は最上の回復劑なるを知るべし、博識はくしきに依る信仰治療法は病軀を試験物視する治療法に優る數等なるを知れ。

二、汝癡人となりたればとて絶望せんとす、嗚呼然らば汝の宗教も夥多くわたとの基督信徒並に異教信徒の宗教と同じく事業教なり、汝も未だ人類の大多數と共に事業を以て汝の最大目的となすものなり、事業は人間の最大快樂なり、然れども此快樂を得る能はずとて落膽失望に沈むは汝の未だ事業に優る快樂あるを知らざれば也、基督教は他の宗教に勝りて事業を獎勵すると雖も基督教の目的は事業にあらざるなり、基督は汝が大事業家たらんが爲めに十字架上に汝の爲めに生命いのちを捨てざりしなり、基督の目的は汝の心靈を救はんとするにあり、若し世の快樂が汝を神に歸らしむるの妨害となるなれば神は此快樂を汝より取り去り賜ふべし、神は汝の身軀と事業とに勝りて汝の靈魂を愛し賜ふなり、汝の事業若し汝の心を神より遠ざくるあれば神は此事業てふ誘惑を汝より取除け賜ふなり、人は偶像を崇拜するのみならず亦自己の事業をも崇拜するものなり、

なんぢは祭物さいもつをこのみ賜はず、

若し然らずば我これをさげん、

なんぢまた燔祭はんさいをも悦びたまはず、

神のもとめたまふ祭物なましいはくだけたる靈魂たましいなり、

神よなんぢは碎けたる悔くいしころを貌かうしめたまふまじ。

事業とは我等が神にさぐる感謝のさげ物なり、然れども神は事業に勝るさげ物を我等より要し賜ふなり、即ち碎けたる心、小兒の如き心、有の儘の心なり、汝今事業を神にさぐる能はず、故に汝の心をさげよ、神の汝を病ましむる多分此爲めならん、汝はベタニヤのマルタの心を以て基督に事つかへんと欲し、「供給おおくのこと多し、

て、心、い、り、み、だ、れ、（路加傳十章四十節）た、る、な、る、べ、し、故、に、神、は、汝、に、マ、リ、ヤ、の、心、を、與、へ、ん、が、爲、め、に、汝、を、し、て、働、ら、き、
得、ざ、ら、し、め、た、り、。

手、に、も、の、も、た、で、十、字、架、に、す、が、る、
と、は、汝、の、常、に、歌、ひ、し、處、に、し、て、其、蘊、奥、な、る、意、義、を、知、ら、ん、が、爲、め、汝、は、今、働、く、こ、と、能、は、さ、る、も、の、と、な、れ、り、。

我のこの世につかわされしは、

わが意を世にはる爲めならで、

神の恵をうけんため、

そのみむねをばとげん爲めなり。

なみだの谷や笑の園、

かなしみは來んよろこびと、

よろこび受けんふたつとも、

神のみこゝろならばこそ。

勇者のたけき力をも、

教師のもゆる雄辨も、

われ望まぬにあらねども、

みむねのまゝにあるにはしかじ。

弱き此身はいかにして、

そのつとめをばはつべきや、

われは知らねど神はしる、

神に頼る身は無益むやくならぬを。

小なるつとめ小ならず、

よを蓋ふとても大ならず、

小はわが意をなすにあり、

大はみむねによるにあり。

わが手を取れよわが神よ、

我行くみちを導けよ、

われの目的めあては御意みねをば、

爲すか忍ぶにあるなれば。

汝手足を勞するを得ず故に世に爲す事なしと言ふや、汝高壇に立て説教し得ず故に福音を他に傳ふるを得ずと言ふや、汝筆を採て汝の意見を發表するを得ず故に汝世を感化するの力を有せずと言ふや、汝病床にあるが故に汝の此世に存するは無用なりと言ふや、嗚呼、然らば汝は戰場に出でざる兵卒は無用なりと言ふなり、山奥に咲く蘭は無用なりと言ふなり、海底に生茂る珊瑚は無用なりと言ふなり、渠の岩間に咲く蓮馨花は人に見ゑざるがゆゑに彼女は紅衣を以て装はざるか、年々歳々人知れずして香を砂漠の風に加へ、色を無覺の岩石に呈する花何ぞ多きや、神は人目の達せざる病床の中に神に依て靈化されたる天使の形を隠し置き賜ふなり、靜寂なる汝の溫顔に忍耐より來る汝の微笑は千百の説教に勝て力あるものなり、凹みたる汝の眼中に浮ぶ推察の涙一滴は萬人の同情に勝る刺激なり、瘦矢りたる汝の手を以て握手さるゝ時は天使の愛を我等が感受する時なり、我未だ我が眼を以て天使を見し事なし、然れども我の愛せしものが病床にありし時大理石の如き容貌、鈴蟲の音の如き聲、朝露の如き涙、——彼若し天使にあらざれば何を以て天使を描かんや、我は如斯ものが終生病より起つ能はずして我が傍にあるとも、決して苦痛を感じざるべし、彼は日々我の慰藉なり、我を清め、我を高め、我をして天使が我を守るの感情あらしむるものなり、汝若し天使を拜せんとならば、行て病に臥する淑徳の婦人を見よ、彼は今世に於て已に靈化して天使となりしものなり。

汝又快樂を有せずと言ふ勿れ、汝の愛するもの汝と共にあり、是大なる快樂ならずや、汝の軟弱なると忍耐なるとは、汝の強壯なる時に勝りて汝を愛らしきものとなせり、愛せらるゝは今汝の特權なり、汝力なきものとし

て愛せられよ、愛せらるゝを拒むは汝他を惱ますなり、汝の愛するものは汝の愛せられんことを望むなり、世に病者の存する理由は世に愛せらるゝものゝあらんが爲めならん、我等弱きものを愛して自己の高尚なるを感じるものなり、我は愛せらるゝよりも愛する事を欲す、汝我の爲めに我に愛せられよ、而して我の汝を愛するに依て汝より受くる喜悅よろこびと感謝とを以て汝の快樂とせよ。

汝若し尚ほ普通の感覺を有するあれば無限の快樂未だ汝と共に存するなり、山野にさまよひ自然と交通して自然の神と交はるは今汝の能はざる所、淑女巨人と一堂に集ひ思想を交換し事業を畫かするは今汝の及ばざる所、然れども若し汝にして四十八文字を解するを得ば、聖書なる世界文學の汝と共にあるなり、以て汝を勵し汝を泣しむべし、以て汝の爲めに戀歌を供し（ソロモンの雅歌）、汝の爲めに軍談を述ぶ可し（約書亞記ヨシヤ士師記）、貞操美談あり（路得記ルツ）、慷慨歌あり（耶利米亞記エレミヤ）、汝の渾すべての感情に訴へ喜怒哀樂の情かわるがわる起り汝をして少しも倦怠なからしむ、汝聖書を樂讀らくどくせよ。

然れども若し讀書は汝の堪ゆる所にあらざれば、他の快樂尚ほ汝の爲めに備へらるゝあり、即ち心を靜めて神の攝理を思ひ見よ、神は人を造り彼に罪を犯すの自由を與へて又彼を救ふの術を設けられたり、救濟の目的として此世界と汝の一生とを考へ見よ、如何なる芝居の脚本か之に勝るの悲劇歡劇を載のするあるや、攝理の戯曲（Romance of Providence）を讀むものは保羅と共に絶呼せざるを得ず、

あゝ神の智と識の富は深いかな、其法度さだめは測り難く、その踪跡みちは索ね難し。孰たれか主の心を知りし、孰か彼と共に議することを爲せしや、孰か先づかれに施あたへて其報ひくいを受んや、そは萬物よろづのものは彼より出、かれに倚より、かれに歸

ればなり、願くは世々榮神ほまれにあれ、アーメン。

〔羅馬〕
羅馬書十一章三十三節より三十六節迄

僧アンソニー曾て書を盲人某に送て曰く、

君肉眼缺乏きみにんげんけつぼうの故を以て君の心を苦しむる勿れ、之れ蠅も蚊も有するものなればなり。たゞ喜べよ、君は天使

の有する眼を有するが故に神を視るを得、神の光を受くべければなり。

動物的の汝は病めり、然れども天使的の汝は健全なるを得るなり、汝動物的の快樂を去り天使的の快樂を取れ。

亦病むものは汝一人ならざるを知れ、一秒時間に一人づゝ人類は呼吸を引き取りつゝあるを思へ、一ケ年に八

十萬人宛づ日本人は墓に葬らるゝを知れ、全國にある四萬人以上の醫師は平均一日五人以上の患者を診察しつゝあ

るを覺へよ、しかのみならず少しも病を感じざるの人としては千人中一人もあるなきを知れ、實に人類全軀は病み

つゝあるなり、人類はアダムの罪に由て死刑を宣告されしものなり、(如何なる神學上の學說より論ずるも)、而

して第二の**アダム**より靈の賜物を得しものゝ眞正の生命を有するものなり、汝は人類全軀と共に病みつゝある

なり、汝の苦痛に依て心靈を有する世界人民十六億萬人の苦痛を想ひ見よ。

汝を哺育ほいくせし汝の母も汝の如き苦痛を忍んで眠れり、汝より妙齡なる汝の妹も能くその兩親の言ことばを聞き分けて

つぶやく事なくして眼を閉ぢたり、汝獨り忍び得ざるの理あらんや、神はその獨子をして人間の受くべき最大苦

痛を感じしめ玉へり、神は愛する程その子を苦しめ賜ふが如し、汝の苦しめらるゝは汝神に愛せらるゝの證なり、

忍びて試誘こころみを受ける者は福さいはひなり、蓋そはこゝろみを経て善とせらるゝ時は生命の冕かんむりを受くべければなり、この冕

〔ヤコブ〕
雅各書一章十二節

來らんとする未來の觀念は汝を慰むるや否やを知らず、今之を汝に説く反て汝を傷ましむるを恐る、然れども世界の大英雄大聖人の希望と慰なぐさめは多くは未來存在の信仰にありき、ソクラトスは靈魂不滅について論究しつゝ死せり、老牧師ロビンソン醫師より危急の報を聞くや彼の友人に告て曰く「死とは斯く平易なるものなるや」と、スウキーデンボルク將に死せんとするや友人彼の心中の樣を問ふ、彼答て曰く「幼時老母の家を訪はんとするの喜悅よろこびあり」と、ビクトルヒューゴは佛國の詩人にして小説家なり、彼の著述は歐洲を震動せしめ、彼の筆誅ひつちゆうに罹りし高慢なる宗教家と政事家は彼を虛無黨と稱し無神論者と見做したり、彼れ歳八十にして尚ほ壯年の希望あり、一日彼の未來存在に關する信仰を表白して曰く、

余は余に未來生命の存するを感ず、余は切り倒されたる林の木の如し、新鮮なる萌芽は愈々強く愈々活潑いきよくに斷株きりかぶより發生するを見る、余は天上に向て登りつゝあるを知る、日光は余の頭上を輝せり、地は尚ほ其ようじゆう養汁を以て余を養へども、天は余の未だ識らざる世界（天國）の光線を以て余を輝らせり、人は言ふ、靈魂とは存せざるものにして、唯魅力の結果なりと、然らば何故に余の魅力の衰ふると同時に余の靈魂の益々光澤を加ふるや、嚴冬余の頭上に宿るに余の心は永久の春のごと

し。

.....

我生涯の終りに近づくに及んで他界の美音益々明瞭に余の耳に達するを覺ゆ、其聲驚くべくして又單純なり、

雅歌の如くにして歴史様の事實なり、余は半百年間散文に詩文に歴史に哲學に戯曲に落首に余の思想を發表したり、而して尚ほ余の心に存する千分の一だも言ひ盡さざりしを知る、余は墓に入る時余は一日の業を終へたりと言ふと雖ども、余の一生を終へたりと言ふ能はず、余の仕事は明朝又再び始まらんとす、墓とは道路の行詰りにあらずして、他界に達する通り道なり、曉に至る味爽なり。

余は此世に存する間は働くなり、此世は余の本國なればなり、余の事業は始めかけたり、余の築かんとする塔は漸く土臺石の据附を終へたり、其竣工は永久の仕事なり、余の長久を渴望するは余の永久の生を有する證なり

と此人にして此言げんあり、靈魂不滅は基督教の教義のみにあらざるなり。

メソヂスト派の始祖ジョン、ウエスレー死するの前日、彼れ友人に向ひ數回重復して曰く、「何よりも善き事は神我等と共に在す事なり」と、神は萬物の靈たる人間の有するものの中に最も善なる最も貴きものなり、神は財産に勝り、人牀の健康に勝り、妻子に勝りたる我等の所有物なり、富は盜まるゝの懼と浪費さるゝの心配あり、國も教會も友人も我を捨てん、事業は我をたかぶらしめ、此肉牀も我失はざるを得ず、然れども永遠より永遠に至る迄我の所有し得べきものは神なり、人靈の價値は最も高き神より以下のものを以て満足し能はざるにあり、而して

そは或は死、或は生、或は天使、あるひは執政、あるひは有能、あるひは今ある者、あるひは後あらん者、或は高き或は深き、また他の受造者は我儕を我主イエスキリストに頼れる神の愛より絶らすこと能はざる者

なるを我は信ぜり。

（羅馬書第八章三十八、三十九節）

汝神を有す又何をか要せん。

不治の病怖るゝに足らず、快復の望尚ほ存するあり、之に耐ゆるの慰と快樂あり、生命に勝る寶と希望のぞみとを汝の有するあり、又病中の天職あるあり、汝は絶望すべきにあらざるなり。

第六章 不治の病に罹りし時 現代語訳

体と皮膚は父母から受け、鉄石のような心臓、鋼鉄のような筋骨を、私は神の像と霊をもつてこの世に誕生した。私にアダムの不死の体格がなかったにしても、アポロのような完全で均整のとれた体がなかったにしても、私が父母から授かった体は、今日私が持っているこの体ではなかったのである。私に永遠の命にまで至るべき肉体はなかったとしても、私はよく百年の労働と快楽に耐えられる霊の器を持っていた。上を向けば千仞の谷をよじ登ることができ、下を向けば片手で大海を渡ることができたろう。鷲のような視力は遠い空の果てまでも洞察し、虎のような聴覚は小枝を払うそよ風までも判別できた。私の胃は消化できない食物はなく、私の肺は万丈の頂点にあっても私に疲労を感じさせず、目が覚めた時は英気が私にあふれて思わず快を叫び、床につくと熟睡がすぐに訪れて丸太のように無感覚であった。山を抜くほどの力、世を覆うほどの気概、私はそれらを持っていた。そして今、それらを持っていないのである。

この楽しい世界も、病んでいる私にとっては何の役にも立たない。存在は苦痛の種であり、私は、労働者が夜が来るのを待つように、死を望んでいる。梅の花は香りを放つが私には益がなく、ウグイスは恋歌を奏でるが私には感動がない。身を立てて道を実践し、名を後世に残すという希望は、今は私の中に全くなく、心を尽くし力を尽くして国と人を救うという快楽も、今や私の所有するところではない。詩人ゲーテは「Unnütz sein ist Todt sein（不用であることは死んだことである）」と言っているが、私は今、世に不用であるだけでなく、私の存在は

かえって世を悩ますものになっている。もし私が他人を救えないならば、私は他人を煩わせるべきではない。ああ、恵み深い神よ、一日も早く私にこの世を終わらせてほしい。私が今、あなたに望むことは他にはないのである。死は私にとっては最上の賜物である。

どうして、艱難の中にいる者に光を与え、

心が苦しむ者に生命を与えたのだろうか。

このような者は死を望むけれども来ず、

それを求めるのは隠された宝を掘るよりもひどく、

もし墓を見つけて得たなら、

大いに喜び楽しむだろう。

その道が隠され、神に閉じ込められている人に、

どうして光を与えるのだろうか。

振り返ってみると、過ぎし年の私の生涯、私の失敗、それを思うと後悔はほとんど堪えられないものがある。

ああ、夜が来ないうちに私は私の仕事を終えなかったことを悔やむ。私の過去は砂漠であり、無益に浪費した年月、思慮なく放棄した機会、犯した罪、しなかった善——私の痛みは肉体だけに留まらないのである。

シオンの戦いが激しい時期を迎えているのに、私は役立たずの兵士であるため、一人内に座して、汗馬が東西に走るのを見、矢叫びの声、太鼓の音をただ遠方に聞いているに過ぎない。私は世に立つ望みが絶たれ、また未

が医学を専心的に信じるようになり、医学の及ばないところを人力も神力も及ばないところと見なすようになったことは、実に人類の大いなる損失と言わざるを得ない。私たちはもちろん、旧約聖書に記されている奇跡的な治療が今日なお存在すると信じているわけではない。屋根から落ちて骨を折った時に医師に行かず、祈禱に頼るのは愚かであり、不信仰である。神は熱病を治すためにキニーネ剤を私たちに与えてくださった。人がこれがあることを知って用いないのは罪である。局所切断の際、クロロホルム剤は天から賜った麻醉剤なので、感謝して受けるべきである。けれども、私たちは病気の時にすべてを医者と薬品とに頼るのは、私たちのすべきことではない。私たちは病気が重くなって、やぶ医者を去って名医に行くように、名医もなお私たちを治せない時は、神である最上の医師に至るのである。やぶ医者が「私の病気は不治である」と診断する時に、私は絶望に沈むべきだろうか。いや、そうではない。名医の診断がやぶ医者 of 診断の全くの誤りであることを示すことがあるように、全能の神からご覧になる時は、不治と称されるあなたの病気もまた治し難い病気ではないだろう。

世には信仰治療法というものがある。すなわち、医薬を用いず、全く衛生と祈禱とによって病気を治す方法を言う。私たちは、ある一派の信仰治療者が言うように、「医師は悪鬼の使者であり、薬品は悪魔が供する毒物である」とは言わない。けれども、信仰が難病治療法として莫大な効果があることを疑わない。もちろん、私たちの称する信仰治療法というものは、かの偶像崇拜者が医薬を軽んじて神仏に祈願したり、霊水を飲んだりする類を言うのではない。信仰治療法は、体を自然の創造主とその法則とに任せ、心安らかにして宇宙に存在する霊気に私の体を平常の体に戻させることにある。これは迷信ではなく、学術的な真理である。特に医師が不治と称する

病氣においては、ただこの治療に頼るべきものがあるだけである。私は自分の病氣を治そうとする方便として信仰するのではない。それは真正の信仰ではないからである。このような信仰治療法は無益である。けれども、私は信じざるを得ないから信じるのである。

見よ、下等動物の傷を癒すことにおいて、自然の法則が速やかで効果が大きいことを。清浄な空氣に勝る強壯剤はなく、水晶のような清水に勝る解熱剤はない。特に、平安な精神が最上の回復剤であることを知るべきである。知識による信仰治療法は、病体を実験物と見なす治療法に数段優ることを知るべきである。

二、あなたは廢人となったからといって絶望しようとする。ああ、そうだとすれば、あなたの宗教も非常に多くのキリスト教徒や異教徒の宗教と同じく、事業の宗教である。あなたはまだ人類の大多数と同じく、事業をあなたの最大目的としているのである。事業は人間の最大の快樂である。けれども、この快樂を得ることができないからといって落胆し失望に沈むのは、あなたがまだ事業に勝る快樂があることを知らないからである。キリスト教は他の宗教に勝って事業を奨励するけれども、キリスト教の目的は事業ではないのである。キリストはあなたが大事業家となるために、十字架上であなたのために命を捨てたのではない。キリストの目的はあなたの心靈を救おうとすることにある。もし世の快樂があなたを神に帰らせる妨げとなるならば、神はこの快樂をあなたから取り去ってくださるだろう。神はあなたの体や事業に勝って、あなたの魂を愛してくださるのである。もしあなたの事業があなたの心を神から遠ざけることがあれば、神はこの事業という誘惑をあなたから取り除けてくださるのである。人は偶像を崇拜するだけでなく、自己の事業をも崇拜するものである。

あなたは祭物を好まれず、

もしそうでないなら、私はそれを捧げただろう。

あなたはまた燔祭をも喜ばれない。

神が求められる祭物は、砕かれたたましいである。

神よ、あなたは砕かれた悔いる心を軽んじられない。

事業とは私たちが神に捧げる感謝の捧げ物である。けれども、神は事業に勝る捧げ物を私たちから要求される。すなわち、砕かれた心、小児のような心、ありのままの心である。あなたは今、事業を神に捧げることができない。だから、あなたの心を捧げなさい。神があなたを病ませるのは、おそらくこのためであらう。あなたはベタニアのマルタの心をもつてキリストに仕えようとし、「いろいろなものとなしのために心が落ち着かない」（ルカの福音書十章四十節）でいるのだろう。だから神はあなたにマリヤの心を与えようとして、あなたを働けなくさせたのである。

手にものをもちたず 十字架にすがる、

というのはあなたの常に歌ったところであり、その奥深い意義を知るために、あなたは今働くことができない者となったのである。

私がこの世に遣わされたのは、

私の意を世に広めるためではなく、

神の恵みを受けるため、

そのみ旨を果たすためである。

涙の谷であろうと笑いの園であろうと、

悲しみは来よう、喜びとともに、

喜びを受けよう、その両方を、

神の御心であるならばこそ。

勇者の力強く雄々しい力も、

教師の燃えるような雄弁も、

私が望まないわけではないけれども、

御心のままにあることに勝るものはない。

弱いこの身はどのようにして、

その務めを果たせるのだろうか。

私は知らないけれども神は知っている、

神に頼る身は無益ではないことを。

小さな務めは小さくなく、

世を覆うとしても大きくはない。

小は私の意をなすことあり、

大は御心によることにある。

私の手を取ってください、

我が神よ、私が行く道を導いてください、

私の目的は御意を、

なすか、忍ぶかにあるのだから。

あなたは手足を労することができないから世に何もすることがないと言うのか。あなたは高壇に立って説教することができないから福音を他人に伝えることができないと言うのか。あなたは筆を執ってあなたの意見を発表することができないから世を感化する力がないと言うのか。あなたは病床にいるからあなたのこの世に存在することは無用であると言うのか。ああ、そうだとすれば、あなたは戦場に出ない兵卒は無用であると言うのであり、山奥に咲く蘭は無用であると言うのであり、海底に生い茂る珊瑚は無用であると言うのである。あの岩間に咲く

サクラソウは人に見えないからといって、彼女は赤い衣で装わないだろうか。年々歳々、人知れず香りを砂漠の風に加え、色を無感覚な岩石に呈する花がどれほど多いことか。神は人目の届かない病床の中に、神によって霊化された天使の姿を隠し置いてくださるのである。静寂なあなたの優しい顔に、忍耐から来るあなたの微笑みは、千百の説教に勝って力あるものである。くぼんだあなたの眼中に浮かぶ察しの涙一滴は、万人の同情に勝る刺激である。やせ細ったあなたの手と握手する時は、天使の愛を私たちが感受する時である。私はまだ自分の目で天使を見たことはない。けれども、私が愛した人が病床にいた時、大理石のような顔つき、スズムシの音のような声、朝露のような涙、——彼がもし天使でなければ、何をもって天使を描写すればよいのだろうか。私はこのようにあなたが終生病から起き上がることができず、私の傍にいたとしても、決して苦痛を感じないだろう。彼は日々私の慰めであり、私を清め、私を高め、私に天使が私を守るという感情を抱かせるものなのである。もしあなたが天使を拝したいと願うなら、行つて病に臥す淑徳の婦人を見なさい。彼はこの世においてすでに霊化して天使となつた者である。

あなたはまた快樂がないと言ふべきではない。あなたの愛するものがあなたと共にいる。これは大いなる快樂ではないだろうか。あなたの弱々しさと忍耐は、あなたが強壮であつた時よりも、あなたを愛らしいものにした。愛されることは今、あなたの特権である。あなたは力のない者として愛されなさい。愛されることを拒むのは、あなたが他人を悩ますことである。あなたの愛するものは、あなたが愛されることを望んでいるのである。世に病人が存在し続ける理由は、世に愛される者がいるためであらう。私たちは弱いものを愛して自己の高尚さを感

じるのである。私は愛されるよりも愛することを欲する。あなたは私のために私に愛されなさい。そして、私があなたを愛することによって、あなたから受ける喜びと感謝とを、あなたの快樂としなさい。

もしあなたがまだ普通感覚を持つているならば、無限の快樂がまだあなたと共に存在しているのである。山野をさまよい、自然と交流して自然の神と交わることは今、あなたのできないことである。淑女や巨人と一堂に集まり、思想を交換し、事業を計画することは今、あなたの及ばないところである。けれども、もしあなたが四十八文字を理解することができるとすれば、聖書という世界文学があなたと共にいるのである。それはあなたを励まし、あなたを泣かせることができるだろう。それはあなたのために恋歌を供し（ソロモンの雅歌）、あなたのために軍談を述べるだろう（ヨシユア記、士師記）。貞操の美談があり（ルツ記）、慷慨の歌がある（エレミヤ記）。あなたのすべての感情に訴え、喜怒哀樂の情が代わる代わる起こり、あなたに少しも倦怠を感じさせない。あなたは聖書を楽ししく読みなさい。

けれども、もし読書があなたの耐えられるところでなければ、他の快樂がなおあなたのために備えられている。すなわち、心を静めて神の摂理を思い見ることである。神は人を造り、彼に罪を犯す自由を与えて、また彼を救う術を設けられた。救済の目的として、この世界とあなたの人生とを考えてみなさい。どのような芝居の脚本がこれに勝る悲劇や喜劇を載せているだろうか。摂理の戯曲（Romance of Providence）を読む者は、パウロと共に思わず叫ばずにはいられないだろう。

ああ、神の知恵と知識の富は、なんと深いことでしょう。神のさばきはなんと知り尽くしがたく、神の道は

なんと極めがたいことでしょう。「だれが主の心を知っているのですか。だれが主の助言者になったのですか。だれがまず主に与え、主から報いを受けるのですか。」すべてのものが神から発し、神によって成り、神に至るのです。この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。

(ローマ人への手紙十一章三十三節から三十六節まで)

アントニウスはかつて、盲人のある人に書を送った。

「あなたは視覚を失っていることで心を苦しめる必要はない。なぜなら、そのような目(視力)はハエや蚊でさえ持っているものだからだ。ただ喜ばなさい。あなたは天使が持っている眼を持っているので、神を見ることができ、神の光を受けることができるはずであるからだ」と。

動物的なあなたは病んでいる。けれども、天使的なあなたは健全でいられるのである。あなたは動物的な快楽を去り、天使的な快楽を取りなさい。

また、病んでいるのはあなた一人ではないことを知りなさい。一秒間に一人ずつ人類は息を引き取っていることを思いなさい。一年に八十万人ずつ日本人が墓に葬られていることを知りなさい。全国にいる四万人以上の医師は、平均して一日五人以上の患者を診察し続けていることを覚えなさい。それだけでなく、少しも病気を感ぜないという人は千人中に一人もいないことを知りなさい。実に人類全体が病み続けているのである。人類はアダムの罪によって死刑を宣告された者である(どのような神学上の学説から論じても)。そして、第二のアダムから霊の賜物を得た者のみが真正の生命を持つ者なのである。あなたは人類全体と共に病み続けているのである。あ

あなたの苦痛によって、心霊を持つ世界人民十六億人の苦痛を思い見なさい。

あなたを育てたあなたの母も、あなたのような苦痛を忍んで眠った。あなたより若く美しいあなたの妹も、よくその両親の言葉を聞き分けて、つぶやくことなく眼を閉じた。あなた一人だけが耐えられない道理があるだろうか。神はその独り子に、人間が受けるべき最大の苦痛を感じさせたのである。神は愛するほどその子を苦しめるようだ。あなたが苦しめられるのは、あなたが神に愛されている証拠である。忍耐して試みを受ける者は幸いである。それは試練を経た後、善いと認められた時には、生命の冠を受けることができるからである。この冠は、主が自分を愛する者に約束してくださったものである（ヤコブの手紙一章十二節）。

来ようとする未来の観念があなたを慰めるかどうかは知らない。今、これをあなたに説くことがかえってあなたを傷つけることを恐れる。けれども、世界の大英雄や大聖人の希望と慰めは、多くは未来の存在への信仰にあった。ソクラテスは魂の不滅について論究しつつ死んだ。老牧師ロビンソンは医師から危篤の報を聞くや、彼の友人に告げて「死とはかくも平易なものなのか」と言った。スウェーデンボルグはまさに死に瀕して、友人が彼の心中の様子を尋ねると、彼は答えて「幼い頃に老いた母の家を訪ねようとする喜びがある」と。ヴィクトル・ユーゴーはフランスの詩人であり小説家である。彼の著述はヨーロッパを震動させ、彼の筆誅にかかった高慢な宗教家と政治家は、彼を虚無党と称し、無神論者と見なした。彼は八十歳になってもなお壮年の希望があった。ある日、彼の未来の存在に関する信仰を表明して、彼は次のように言った。

私は私に未来の生命が存在することを感じる。私は切り倒された森の木のようなものだ。新鮮な萌芽はます

メソジスト派の始祖ジョン・ウェスレーは死ぬ前日、彼は友人に向かって数回繰り返して、「何よりも良いことは神が私たちと共にいらつしゃるということだ」と言った。神は万物の霊たる人間が持つものの中で最も善なる、最も尊いものである。神は財産に勝り、体の健康に勝り、妻子に勝る私たちの所有物である。富は盗まれる恐れと浪費される心配があり、国も教会も友人も私を見捨てるだろう。事業は私を高ぶらせ、この肉体も私は失わざるを得ない。けれども、永遠から永遠に至るまで私が所有できるものは神である。人の魂の価値は、最も高き神より以下のものをもつて満足することができないところにある。そして、

私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

(ローマ人への手紙八章三十八、三十九節)

あなたは神を持っている。他に何を必要とするだろうか。

不治の病は恐れるに足らない。快復の望みはなお存在しており、これに耐える慰めと快楽がある。生命に勝る宝と希望をあなたが所有している。また病中の天職がある。あなたは絶望すべきではないのである。